

PLAY 2 PLAY - 干渉する次元(改訂版再演)



Photo : Kishin Shinoyama

『PLAY 2 PLAY - 干渉する次元』は、舞踊芸術、建築、音楽、そしてファッション、異なる分野の第一線でそれぞれの専門性を探求する面々によるコラボレーションとして 2007 年に創作され、その完成度の高さから舞踊作品というジャンルを越え、深く感覚に訴えうる作品として好評を博しました。そして今回、音楽・衣裳も改訂、新たなメンバーでの創作を経て、再演します。Noism 芸術監督・金森穰も 2 年半ぶりに出演。初演から 6 年、新たに生まれ変わる本作にどうぞご期待ください。

演出振付▶金森穰(りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督/Noism 芸術監督)

空間▶田根剛(DORELL.GHOTMEH.TANE/ARCHITECTS)

音楽▶トン・タツ・アン

衣裳▶三原康裕、堂本教子

出演▶Noism1 + 金森穰

新潟公演 2013 年 12 月 20 日(金)・21 日(土)・22 日(日) りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 <劇場>

神奈川公演 2014 年 1 月 24 日(金)・25 日(土) KAAT 神奈川芸術劇場 <ホール>

主催 公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団

製作 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館

提携 KAAT 神奈川芸術劇場 ※神奈川公演

公演に関するお問合せ:

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 Noism 上杉・堀川

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町 3-2 Tel:025-224-7000 Fax:025-224-5626

2010年冬から、Noism1は年間2つのプログラム(冬と春)の内、冬のプログラムを改訂再演プログラムとして来ました。そこには2004年の設立時から年間2本の新作を発表し続けるうちに、舞踊団としてのレパートリーが増えて来た事、初演時の上演回数が少なかった事、年2本の新作を創る予算がなくなった事、演出振付家として私自身が作品にもっと手を加えたかった事等、様々な要因がありますが、中でも活動を続けるうちに大きくなってきた要因は、Noismに所属する舞踊家達の入れ代わりにあります。

1つの舞踊団に於いて、世代を超えて上演される作品を持つ事は、集団性を維持／持続させる上でとても重要な事です。彼らは過去に創作された作品を通して舞踊団の歴史と向き合い、過去に創られた振付を通して当時在籍した舞踊家達と向き合う事になります。その過程に於いて彼らは過去に思いを馳せ、過去との干渉を通じて現在の自己を見出し、何を受け継ぎ、何を革新して行くべきかという、芸術文化に於ける命題と向き合う事になるのです。

現在 Noism1に所属している舞踊家で、『PLAY 2 PLAY』を踊った事があるのは、井関佐和子ただ1人です。作品が6年前に初演された事からもお判りの様に、現在 Noism1には6年以上在籍している舞踊家が井関以外にはいません。それは技術の継承や、経験値に差異が生じる事などから、舞踊団として憂慮すべき自体であるかもしれませんが、設立3年目に私が『PLAY 2 PLAY』を創作したときの裏テーマ(表題やコンセプトにはない)が、退団して行く舞踊家達への「送別」であった事を思えば、Noismという舞踊団にとって、メンバーとの出会いと別れは常に活動の必然としてそこにあったといえるのです。

人は誰も他者との関係性の裡にあります。身体的諸感覚を駆使し、他者から影響を受け、影響を与え続けています。しかし人が自己を形成する上で不可欠な他者とは、実在する他者に限りません。今は実在しない死者としての他者、人生に於いて1度も出会う事のない人類としての他者、インターネットに象徴される仮想空間に於ける他者、それら想念としての他者との関係性の裡にも、人は存在し、自己は形成されているのです。

しかし 3.11以降現代の我々は、体感出来ない環境汚染に怯え、たった70年前を想起する事を忘れ、国際社会に於ける隣人との関係性は緊張に包まれています。我々は今一度自らの身体感覚について考察し、その深き精神性の裡に自己を見据え、そして他者と向き合う必要があるのではないのでしょうか。

本作品『PLAY 2 PLAY』の改訂版再演が、その一助となれば嬉しく思います。



Photo : Kishin Shinoyama

今回この作品を創作するにあたり、私が始めにコラボレーター達(建築家/音楽家/ファッションデザイナー)に伝えた事は、[PLAY]という曖昧なキーワード、ただそれだけでした。劇場舞台と言う特殊な場、その空間に存在する身体に対して、各々の専門的立場から考えて、創りたいもの、提示したい事、行ってみたい実験を、殆ど「自由にどうぞ」と伝えた様なものでした。

当然「もっと具体的なイメージを」や「何をしたいのか解らない」と言う不安の声も出ましたが、私はあえてそこで「やってみたい事、やりたい事をおっしゃって下さい」と伝えました。しかしこの時点で私の中のキーワードは既に[干渉]となっていました。なぜならそれは、各々専門的立場から提案されてくる要素が[干渉]する事でしか生まれない出来事を生み出す事が、今回の創作に於ける私なりの実験、企画意図だったからです。それは私が今まで行ってきた様な、演出振付家が主体の創作過程＝空間/衣裳/音楽のコラボレーターに対し、自らの内にあるテーマや、イメージに即したものを要求する事ではなく、あくまでもコラボレーター達が、各々の専門分野から見た身体と言うものをまず聞き出し、そして互いに意見し合い挑戦し、時代を共存する事によってしか生まれる事のない、現代に於ける総合芸術＝舞台芸術の可能性を開示する事が、今回私が目指したコラボレーションの形だったのです。

するとまず建築家が「舞台芸術に於ける正面性を問い直す実験を行いたい」と言い、音楽家が「今最も惹かれるのは音の重奏、特に声の重奏である」と言う。そしてファッションデザイナーは「Noismの自由に動く身体達に制約を与えたい」と言い、各々の分野から制約や実験を提案してきました。ここで既に私の中にあつた[干渉]というキーワードが、私だけのものではなく、我々のメインキーワード、コラボレーションの必然となってきました。そこで私が[干渉/パラレルワールド/ミクロ&マクロ/表裏/バタフライ効果/自由&制約]と言う様な第2段階の共通キーワードを彼らの提案から読み取り、それを彼らに提案し、各々独自にリサーチや創作を始め、美術、音楽、衣裳が表記の順に新潟に納品されてきました。当然私と Noism メンバーも、コラボレーター達が何かを提案してくる前に、[PLAY]をコンセプトとした動きのマテリアルを幾つか創り上げ始めていました。その後第2段階のキーワードや、コラボレーター達からの提案(音楽)や、実験(空間)、制約(衣裳)や挑戦(Noismの歴史)という[干渉]を経て、今回のこの身体的出来事が必然的に生み出されて行ったのです。



Photo : Kishin Shinoyama

金森 穰 Jo KANAMORI

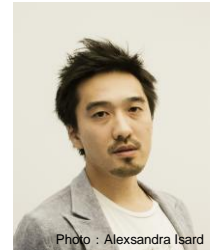
www.jokanamori.com

演出振付家、舞踊家。りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 舞踊部門芸術監督/Noism 芸術監督。ルードラ・ベジャール・ローザンヌにて、モーリス・ベジャールらに師事。ネザールランド・ダンス・シアターⅡ、リヨン・オペラ座バレエ、ヨーテポリ・バレエ他を経て帰国。2004年4月、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督に就任し、日本初の劇場専属舞踊団 Noism を立ち上げる。近年ではサイトウ・キネン・フェスティバル松本での小澤征爾指揮によるオペラの演出振付を行う等、幅広く活動している。平成19年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成20年度新潟日報文化賞ほか受賞歴多数。

プロフィール

田根剛 Tsuyoshi TANE / 空間 www.dgtarchitects.com

1979年東京生まれ。建築家。2006年、DGT(DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS)をダンドレル、リナ・ゴットメと共にパリ・フランスに設立。現在、エストニア国立博物館(2015年完成予定)をはじめ、フランス、スイス、レバノン、日本でプロジェクトが進行中。フランス文化庁新進建築家賞ほか受賞歴多数。コロンビア大学 GSAPP 客員教授。



これまで穰さんが『PLAY 2 PLAY』を再演したいと何度か話してくれていました。それが初演から約2000日の時が経ち、その永い眠りから醒めるかのように、この作品が再び舞台の上で演じられることが嬉しくてたまりません。当時、自分はこの作品に全てを出しました。本当に全てでした。そこにアン・音楽、三原さんの衣裳、そして穰さんの演出振付が Noism の身体によって体现された時、この作品の物語は開かれ、時間は芸術となり、現実を超えてくれました。そして再演！

尊室安 トン・タツ・アン An Tôn Thát / 音楽 www.aakenweb.com

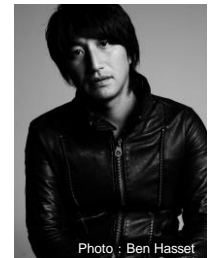
1970年パリ生まれ。ベトナム系フランス人作曲家。コンテンポラリーダンス、演劇、映画、オーケストラ等で作曲家として活動している。Noism では『NINA』('05)、『PLAY 2 PLAY』('07)、劇的舞踊『ホフマン物語』('10)を作曲。近年ではベルリン交響楽団へ楽曲『The Legend of Thanh Giong』を提供、現在は台北を拠点に、映画『When Doves Cry and Like a Thief』やオペラ『Aurelia』での作曲、小説『Hyperbody』等、活動の幅を広げている。



『PLAY 2 PLAY』は、私の人生、そして創作の中でも特別な作品です。新作とは、新たな領域の探求へと背中を押し、崖から飛び降りるようなものです。『PLAY 2 PLAY』の音楽は、継ぎ目のない流れの中に対照的な絵画が溶け込むように発想されました。見事な振付と演出、印象的な空間はもちろん、素晴らしい舞踊家たちのおかげで、結果、そして観客の反応は私の期待を遥かに超えるものでした！Jo から再演の話聞いた時は大いに喜びました。新たな旅が始まります！

三原康裕 Yasuhiro MIHARA / 衣裳 www.miharayasuhiro.jp

1972年長崎生まれ。多摩美術大学在学中より独学で靴作りを開始、'98年に直営店「SOSU MIHARAYASUHIRO」をオープン、翌年ウェアラインを東京コレクションにて発表。'01年<PUMA by MIHARAYASUHIRO>を全世界同時発売。'04年「MIHARAYASUHIRO」がミラノメンズコレクションにデビュー、'07年よりパリメンズコレクションに発表の場を移す。



このたび『PLAY 2 PLAY』が再演される事は嬉しく思います。金森君率いるNoismとの仕事でこのプロジェクトはとても印象に残っています。音楽、舞台装置、そして僕の担当した衣裳。それぞれの人間に金森君は「好きにやって下さい。」としか注文はなく、ストレートに挑戦状を叩き付けてきたような感じでした。それこそがNoismだと思いました。そして最後までいっただいどうなるか分からない緊張感の中、初演を観たときの感動は今思い出しても胸が熱くなります。ありがとうございます君。



堂本教子 Kyoko DOMOTO / 衣裳 www31.ocn.ne.jp/~kyoko88/

コンテンポラリーダンス、舞踏、演劇、映画、音楽などの衣裳デザイン製作。Noism では、2004年に『black ice』(演出振付：金森穰)、'11年『OTHERLAND』の『Stem』(演出振付：稲尾芳文 & K.H.稲尾)、'12年『Nameless Voice～水の庭、砂の家』(演出振付：金森穰)13年『ZAZA～祈りと欲望の間に』(演出振付：金森穰)を手掛ける。'99年と'03年には、チェコ・プラハ カドリエンナーレ国際舞台美術展出展。'00年文化庁芸術家 在外研修として、パトシエバ舞踊団の衣裳デザイナーRakefet Levy に師事。'99年伊藤薫朔賞奨励賞、'06年カイロ国際実験演劇祭ベストセノグラフィー賞(劇団地点の衣裳)、第36回橘秋子賞舞台クリエイティブ賞受賞。

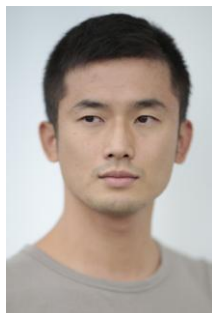
Noism⁰¹

Noism1 (ノイズムワン)

リゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館が舞踊部門芸術監督に金森穰を迎えたことにより、日本初の劇場専属舞踊団として 2004 年 4 月設立。新潟を拠点として、日本国内ツアーをはじめこれまでに海外 7 개국 10 都市でも公演を行っている。プロフェッショナルな身体性と鋭い問題意識に裏打ちされた作品・カンパニー活動に対する評価は高い。'09 年にはモスクワ・チーフホフ演劇祭との共同制作、'11 年にはサイトウ・キネン・フェスティバル松本制作のオペラ&バレエにカンパニーとして参加する等、活動の幅を広げ、今なお国内唯一の公共劇場専属舞踊団として、21 世紀日本の劇場文化発展の一翼を担うべく、常にクリエイティブな活動を続けている。第 8 回朝日舞台芸術賞舞踊賞受賞。



井関佐和子
副芸術監督



中川賢



真下恵



青木枝美



藤澤拓也



宮原由紀夫



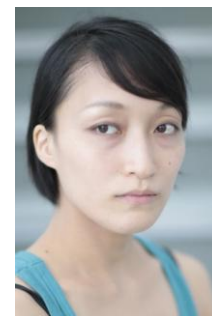
亀井彩加



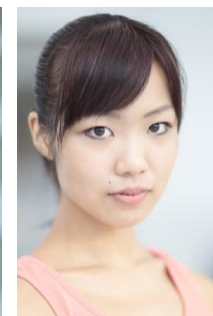
角田レオナルド仁



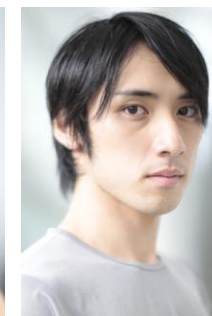
簡麟懿



石原悠子



池ヶ谷奏



吉崎裕哉

Photo: Kishin Shinoyama

ぼくは Noism の作品総てを、写真に撮っている。もちろん『PLAY 2 PLAY』も。
「新潟県立万代島美術館」で今丁度やっている『篠山紀信展 写真力』(12月14日～3月2日)
でも特別コーナーをつくり、Noism の作品を大型パネルに引伸ばして展示している。
もちろん『PLAY 2 PLAY』もあるよ。「りゅーとぴあ」と「美術館」へ走れ！必見！

篠山紀信



Photo : Kishin Shinoyama

2007 年初演時アンケートより

- ・緊張感の連続がたまらないです。今日は舞台上から見て、どうしても客席から見たくになりました。(25 歳 女性)
- ・わけがわからなくて最初は理解しようとしていましたが、途中からは何かもうのみ込まれてしまいました。ブラボー!!! (23 歳 女性)
- ・今度は正面から見てあらためて傑作と思った。立ち会うことができ幸せだ。(男性)
- ・「これはヤバイ」と言っている人がいましたが、まさにそんな感じです。(女性)
- ・美しいです。ダンス鑑賞の仕方が分からずとも、本当に引き込まれてしまいました。無名性の美しさみたいなものを感じました。(24 歳 女性)
- ・まるで一つの人生の旅をした気持ちです。私も生きていこうという希望と勇気もいただきました。(38 歳 女性)
- ・一言でいって圧倒されました。地球上のものとは思えず、宇宙の中、まさに異次元の惑星での生命の躍動。(74 歳 男性)
- ・大感動(だいかんどう) (10 歳 男性)
- ・Noism 史上 No.1 の作品です！とにかくカッコいい！表も裏も絶対見るべきです (女性)
- ・びっくりした！何だろ、これは…。衝撃が大きすぎて、まだ放心状態です。(25 歳 女性)
- ・本当に凄い作品だ！人目がなかったら号泣していました。(38 歳 女性)
- ・涙が出ました。日本でこんな素敵な公演が生まれて嬉しく思います。(29 歳 女性)
- ・“身体”がこんなにも美しく不思議なものだったなんて!!最初の 10 秒で鳥肌が立ちました。(22 歳 女性)
- ・やっぱ Noism カッコいい！！ (21 歳 男性)

公演概要

Noism1 『PLAY 2 PLAY -干渉する次元』(改訂版再演)

演出振付: 金森穰

空間: 田根剛(DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS)

音楽: トン・タツ・アン

衣裳: 三原康裕、堂本教子

出演: Noism1+金森穰

新潟公演 2013年12月20日(金) 19:00 / 21日(土) 17:00 / 22日(日) 15:00

[会場] りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館〈劇場〉

[入場料] 一般 | 舞台上 5,000円 / 1階 4,000円 / 2階 3,000円

学生 | 舞台上 4,000円 / 1階 3,200円 / 2階 2,400円 (全席指定)

* 学生券は、全席種で一般の20%引になります。N-PACmate等、他の割引と併用はできません。

公演当日受付にて学生証をご提示ください。

* 舞台上席・車椅子席はりゅーとぴあのみ取り扱いです。

神奈川公演 2014年1月24日(金) 19:30 / 25日(土) 17:00

[会場] KAAT 神奈川芸術劇場〈ホール〉

[入場料] 全席指定 5,500円 * 舞台上席はチケットかながわのみ取り扱いです。

チケット情報

発売日: N-PAC mate(りゅーとぴあ友の会)・KAme(かながわメンバーズ) 10月17日(木) / 一般 10月19日(土)

■新潟・神奈川共通

りゅーとぴあチケット専用ダイヤル Tel: 025-224-5521(11:00~19:00/ 休館日を除く)

e+ イープラス <http://eplus.jp/>(携帯・パソコン)

■神奈川公演のみ

チケットかながわ Tel: 045-662-8866(10:00~18:00) ※10/1からナビダイヤル0570-015-415に変更。

<http://www.kaat.jp/> (KAme先行はインターネットのみ)

チケットぴあ Tel: 0570-02-9999(Pコード 432-091) <http://pia.jp/t/>(携帯・パソコン)

ローソンチケット Tel: 0570-084-003(Lコード 35873) Tel: 0570-000-407(オペレーター対応 10:00~20:00)

<http://l-tike.com>(携帯・パソコン)

お問い合わせ : りゅーとぴあチケット専用ダイヤル Tel: 025-224-5521(11:00~19:00/ 休館日を除く)

* 未就学児の入場はご遠慮いただいております。

* 開演時間を過ぎますと、しばらくの間ご入場いただけない場合や、ご自席に着席いただけない場合がございます。予めご了承下さい。

主催: 公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団 製作: りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

提携: KAAT 神奈川芸術劇場※神奈川公演 平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

公演に関するお問合せ

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 Noism 上杉・堀川

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2 Tel: 025-224-7000 Fax: 025-224-5626

